

7 課

11月12日

死に対する キリストの勝利



安息日午後 11月5日

暗唱聖句

わたしは、その方を見ると、その足もとに倒れて、死んだようになった。すると、その方は右手をわたしの上に置いて言われた。「恐れるな。わたしは最初の者にして最後の者、また生きている者である。一度は死んだが、見よ、世々限りなく生きて、死と陰府の鍵を持っている。」(黙示録1:17、18、新共同訳)

わたしは彼を見たとき、その足もとに倒れて死人のようになった。すると、彼は右手をわたしの上において言った、「恐れるな。わたしは初めであり、終りであり、また、生きている者である。わたしは死んだことはあるが、見よ、世々限りなく生きている者である。そして、死と黄泉とのかぎを持っている。」(黙示録1:17、18、口語訳)

今週の聖句

マタイ 27: 62～66、ヨハネ 10: 17、18、マタイ 27: 51～53、ヨハネ 20: 11～29、1コリント 15: 5～8

今週のテーマ

キリスト教信仰の中心はイエスの復活です。パウロはこの点を非常に力強く、「死者が復活しないのなら、キリストも復活しなかったはずです。そして、キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお罪の中にあることになります。そうだとすると、キリストを信じて眠りについた人々も滅んでしまったわけです」(1コリ15:16～18)。と述べています。このことについては、次週、さらに詳しく学びます。

パウロは、キリストの死を強調し、また、それがどんなに重要かを述べて、「なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです」(1コリ2:2)と語りました。しかし、キリストの死は、復活がなければ何の意味もありません。だからこそ、イエスの復活は、キリスト教の信仰と救いの計画にとって、とても重要なのです。

今週、私たちはキリストの復活と、復活を信じるためにキリストがお与えになられたあらゆる力強い証拠を学びます。

キリストの使命は、十字架の死をもって終わった（失敗させられた）ように見えました。サタンは、ユダに救い主を裏切るように仕向けることに（ルカ22：3、4、ヨハ13：26、27）、祭司長たちや長老たちは彼の死を要求させることに（マタ26：59、27：20）成功しました。イエスが捕らえられると「弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げ」（同26：56）、ペトロは主を三度否定しました（同26：69～75）。そして今、イエスは岩に掘った墓に横たわり、その墓の入り口は大きな石で封印され、ローマの番兵に見張られ（同27：57～66）、目に見えない悪魔の力に監視されていました。「もしできることなら、彼〔サタン〕はキリストを墓に閉じ込めておきたかった」（エレン・G・ホワイト『原稿集』第12巻412ページ）のです。

キリストは、地上での働きの間、ご自分の十字架の死だけでなく、復活も預言しておられました。イエスは、「よこしまで神に背いた時代の者たちはしるしを欲しがりますが、預言者ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられない。つまり、ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、大地の中にいることになる」（マタ12：39、40）と言われました。イエスは他の機会にも、自分は殺されるが、三日目に復活すると（同16：21、17：22、23、20：17～19）明確に繰り返して語られました。祭司長やファリサイ人たちは、この言葉を覚えていて、主の復活を阻止するための策を講じたのです。

マタイ27：62～66によれば、彼を墓に閉じ込めておくためのすべての対策は、死と悪の軍勢に対する彼の勝利をいっそう際立たせただけでした。なぜならば、復活を阻止するためのあらゆる対策が取られていたからです。

また、人々は、イエスの奇跡を伝え聞いていたはずですし、そのうちのいくつかの奇跡は見たことがありました。彼らは、墓に番兵を立てれば、あれほど多くの奇跡を起こされたお方が、復活されるのを阻止することができると思っただけでしょうか。

番兵を墓の周りに配置したのは、弟子たちが遺体を盗み、イエスが復活したと主張することがないようにするためだったかもしれません。あるいは、人々が「よみがえられたイエスはどこにいる」と語り、彼がよみがえられたことを告げることのないようにするためだったかもしれません。

少なくとも、祭司長たちの行動は、彼らがどれほどイエスを、彼の死んだ後も恐れていたかを明らかにしています。祭司長たちは心の底では、イエスが復活するかもしれないと恐れていたのです。

サタンとその悪の勢力に対するキリストの勝利は、十字架において保証され、空の墓によって立証されました。「イエスが墓の中に横たえられた時、サタンは勝ち誇った。彼は救い主がふたたびよみがえられないようにとさへ望んだ。彼は主の体を要求し、墓のまわりに番兵を配置し、キリストをとりことしてとじこめておこうとした。彼は、悪天使たちが天の使者の接近とともに逃げ出した時、激しく怒った。彼は、キリストが勝利のうちに姿を現された時、自分の王国が終わり、自分はずいに死なねばならないことを知った」(『希望への光』1090ページ、『各時代の希望』下巻314ページ)。キリストの人性は死にましたが、神性は死にませんでした。キリストはその神性において、死の鎖を断ち切る力を持っておられたのです。

問1 マタイ 28：1～6、ヨハネ 10：17、18、ローマ 8：11 を読んでください。イエスの復活に誰が直接かかわっていましたか。

サマリアとペレアでの宣教中、イエスは、命を捨てる力も、再び受ける力もある(ヨハ10：17、18)と言われました。主はマルタに、「わたしは復活であり、命である」(同11：25)と言われました。他の聖句では、イエスの復活は神の御業であると言っています(使徒2：24、ロマ8：11、ガラ1：1、ヘブ13：20)。主の天使さえもその栄光の出来事に関わっていました(マタ28：1、2)。

一方、マタイ 28：11～15は、イエスに対して戦い続ける指導者たちの無益で愚かな努力を明らかにしています。ローマの番兵は指導者たちに、「この出来事をすべて……報告」(マタ28：11)しました。この記述には、番兵たちが復活を見たということが暗示されています。そうでなければ、番兵たちの言葉は何を意味するのでしょうか。天使が天から降って石を動かし、その上に座ると、番兵たちは気を失ったのでしょうか。そして、気がついたときには、墓は空だったのでしょうか。ローマの兵士たちが気を失っている間に、天使がイエスのお体を持ち去ったのでしょうか。あるいは、弟子たちが持ち去ったのでしょうか。いずれにせよ、イエスのお体は、明らかになくなっていました。

天使が天から降って、男たちは恐怖のあまり気を失い、墓は空となった事実、指導者たちを慌てさせるに十分だったはずです。番兵たちを口止めするために「兵士たちに多額の金を与え」(マタ28：12)たことは、番兵たちの報告したことが指導者たちをひどく困惑させたことを意味します。そしてもちろん、番兵たちが報告したことは、イエスの復活でした。

問2 「そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った。そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れた」(マタイ27:51~53)。この信じがたい出来事は、イエスの復活とそれが成し遂げたことについて何を教えていますか。

地震はイエスの死のしるしでした(マタ27:50, 51)。復活されたときにも別の地震が起こっています(同28:2)。イエスが死なれたとき、「地震が起こり、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる者たちの体が生き返った。そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人々に現れ」(同27:51~53)しました。これらの聖なる者たちは、キリストの復活の証人として、また終わりの時によみがえる者の予型として、栄光のうちによみがえりました。このように、イエスの復活の直後に、復活を信じ、救い主としてイエスを受け入れるための力強い証拠がユダヤ人に与えられました。そして、祭司たちを含む多くの者が復活を信じ、イエスを受け入れたのでした(使徒6:7参照)。

「キリストは、その公生涯の間に、死人をいのちによみがえらせられた。彼はナインのやもめの子と、会堂司の娘とラザロをよみがえらせられた。しかし、彼らは不死を着せられなかった。彼らはよみがえってからも、やはり死ぬべき体であった。しかし、キリストの復活のときによみから出て来た者たちは永遠の生命によみがえったのであった。彼らは、死とよみに対するキリストの勝利を記念する者として、キリストと共に昇天した。……

これらの人たちは都へ行って、多くの人に現れ、キリストが死人の中からよみがえられ、われわれはキリストと共によみがえったのだと宣言した。こうしてよみがえりについての聖なる事実が不滅のものとなった」(『希望への光』1091ページ、『各時代の希望』下巻317ページ)。

人間的に言えば、祭司長たちや長老たちは大きな特権を持っていました。彼らは国家の宗教的権力を握っており、ローマ当局や民衆を説得して、自分たちの計略に協力させることができました。しかし、彼らは「いと高き神こそが人間の王国を支配し、その御旨のままにそれをだれにでも与えられるのだということ」(ダニ4:22)を忘れていました。彼らの嘘は、復活した聖なる者たちの存在によって否定され、無効にされました。

問3 ヨハネ 20：11～29 と 1 コリント 15：5～8 を読んでください。よみがえったキリストに最初に会ったときの弟子たちの反応はどのようなものでしたか。

空になった墓で、2人の天使はマグダラのマリアと他の女たちに、イエスがよみがえられたことを告げました（マタ28：1、5～7、マコ16：1～7、ルカ23：55、同24：1～11）。まもなくして、イエスご自身が彼らに現れ、彼らはイエスの前にひれ伏します（マタ28：1、9、10、ヨハ20：14～18）。イエスはペトロにも（ルカ24：34、1コリ15：5）、エマオに向かう2人の弟子にも現れます。イエスが彼らにお語りなると、彼らの心は燃やされます（マコ16：12、ルカ24：13～35）。イエスが弟子たちのいる2階座敷に入って行かれると、彼らは、最初は恐れおののきますが、その後、喜びに満たされ、起こった出来事に驚嘆しました（ルカ24：33～49、ヨハ20：19～23）。1週間後、イエスは再び、扉を開けずに同じ部屋に來られました。この時はトマスも主の復活を信じました（ヨハ20：24～29）。

復活から昇天までの40日間、イエスは「五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました」（1コリ15：6）。そしてヤコブにも現れました（1コリ15：7）。イエスはガリラヤ湖の岸辺で何人かの弟子と朝食を共にし、その後ペトロと話されます（ヨハ21：1～23）。この他にも、昇天時に現れる以前に（ルカ24：50～53、使徒1：1～11）、イエスは弟子たちに現れたようです（使徒1：3）。パウロもまた、ダマスコへの途上で主にお会いし、自らをよみがえられたキリストの証人であると考えていました（1コリ15：8、使徒9：1～9と比較）。

弟子たちが不在であったトマスによみがえられた主を見たと言すと、トマスは、「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない」（ヨハ20：25）と言いました。1週間後、イエスは再び弟子たちに現れ、今度は一緒にいたトマスに、「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい」（同20：27）と言われました。するとトマスは、「わたしの主、わたしの神よ」（同20：28）と告白します。イエスは、「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである」と付け加えられました（同20：29）。

「見ないのに信じる人は、幸いである」。あなた自身は復活したイエスを見ていないとしても、イエスを信じるどんな理由を持っていますか。

問4 1コリント15:20と申命記26:1~11を読んでください。パウロはどのような意味で、キリストを「眠りについた人たちの初穂」と言ったのでしょうか。

「初穂」を献げるという行為は、古代イスラエルの農業における慣習であり、宗教的に深い意味がありました。それは、作物を成長させ、収穫を待つばかりの土地を神の民に預けてくださった恵み深い与え主として神を礼拝する行為でした(出23:19、同34:26、レビ2:11~16、申26:1~11)。初穂は、収穫の始まりを知らせるだけでなく、収穫物の出来栄をも示していました。

ウェイン・グルーデムによれば、「キリストを『初穂』(ギリシア語で「アパルケー」と呼ぶことによって、パウロは、私たちがキリストのようになることを示すために農業をたとえとして用いています。『初穂』または収穫して最初に味わう穀物が、残りの収穫もそのようであることを示すように、『初穂』としてのキリストは、主が私たちを死からよみがえらせ、御前に引き上げてくださる最後の「収穫」のときの私たちの復活した体が、どのようなものであるかを示しています」(『組織神学』615ページ、英文)。

イエスは栄化された人間の体をもって墓から出て来られましたが、なお十字架の傷跡をその身に残しておられたことを覚えておく価値はあります(ヨハ20:20、27)。これは、よみがえった神の子らも同様に、彼ら自身の苦しみの傷跡を肉体に持ち続けることを意味しているのでしょうか。使徒パウロの場合、栄化されても、「一つのとげ」(2コリ12:7)や「イエスの焼き印」(ガラ6:17)を持つことになるのでしょうか。

パウロは死ぬまで、「彼の目に、天の光によって見えなくなったことによるキリストの栄光の焼き印を負っていた[使徒9:1~9参照]」(エレン・G・ホワイト『贖いの物語』275ページ、英文)のでした。しかし、これはパウロや他の栄化されて贖われた者が、焼き印を負ってよみがえることを意味していません(1コリ15:50~54比較)。キリストの場合、「この残酷な行為の傷跡を永久におとどめになる。一つ一つの釘のあとは、人間の贖罪の驚くべき物語と、そのために払われた高価な値とを語るのである」(『初代文集』復刻版169ページ)。彼の傷跡は、私たちのすべての傷跡が永遠に消え去ることを保証しているのです。

キリストは永遠に十字架の傷跡を負われます。それは私たちに對する神の愛と、私たちのためにどれほどの代価が払われたかについて、何を示していますか。

参考資料として、『各時代の希望』第80章「ヨセフの墓の中に」、第81章「主はよみがえられた」、第82章「なぜ泣いているのか」、第83章「エマオへの道」、第84章「安かれ」を読んでください。

現代人の感情はイエスの復活のようなことは信じません。しかしながら、歴史的証拠があまりに確かなために、復活を信じない人々でさえ、多くの人々が復活したイエスを見た다고信じていることを認めざるを得ません。ですから、復活の弁明の多くは、なぜ多くのさまざまな人々が復活したキリストを見た다고信じるに至ったかの理由を説明しようとするものなのです。

弟子たちは全員、復活したイエスの幻覚を見たのだと主張する者もあれば、イエスは実際には死んでおらず、十字架から降ろされた後に意識を取り戻しただけで、再びイエスが現れたとき、弟子たちは、イエスは死からよみがえったと思ったのだと主張する者もいます。さらに、(信じられないことですが) イエスには双子の兄弟がいて、弟子たちはその兄弟をイエスと勘違いしたと主張する者さえいます。言い換えれば、キリストの復活の歴史的証拠があまりにも確かであるために、それを否定するために、人々はこのような種類の主張を議論するのです。復活は非常に重要です。だからこそ、私たちが信じるために十分な証拠が与えられていることは驚くことではありません。

「キリストが十字架から『すべてが終った』と叫ばれた声は死者の中にも聞こえた。その声は墓の壁をつらぬいて、眠っている者たちに起きよと呼びかけた。キリストの声が天から聞こえる時もこれと同じである。

その声は墓所をつらぬき、墓を開き、キリストのうちにある死人は起きあがるのである。救い主のよみがえりの時には少数の墓が開いたが、再臨の時にはすべての死せるといふ人々がキリストの声を聞いて、輝かしい永遠の生命に入るのである。キリストを死人の中からよみがえらせたのと同じ力が、教会をよみがえらせ、これに『すべての支配、権威、権力、権勢……また、この世ばかりでなくきたるべき世においても唱えられる、あらゆる名』にまさって、キリストと共に栄光をさずけるのである(エペソ1:21)、『希望への光』1092ページ、『各時代の希望』下巻318、319ページ)。

話し合いのための質問

- ① 「すべてが終った」(ヨハ19:30、口語訳)と「よみがえられた」(マタ28:6、口語訳)は、最も意義深い宣言です。この二つの言葉は、救済の歴史の中でどのように補い合い、どのような大きな希望を含んでいますか。